

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22320078

研究課題名(和文) 都市の地域中心性と敬語行動 —伊賀上野における第二次調査を中心に—

研究課題名(英文) Urban Areas as Regional Centers and their Honorific Language Behavior: Focussing on the Second Iga-Ueno Survey

研究代表者

中井精一 (NAKAI Seiichi)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：90303198

研究成果の概要(和文)：

平成 22 年～24 年度の 3 カ年におよぶ共同研究によって、近畿地方の伝統的・地方都市：伊賀上野における敬語行動の特徴を社会言語学的観点から総合的に分析し、一次調査以後 60 年の言語行動の変化とその要因を明確にするとともに、日本の都市をフィールドとした新しい言語研究の方法を示した。

研究成果の概要(英文)：

For three years from 2010 to 2012, we conducted collaborative research on a traditional regional city, namely Iga-Ueno. We performed comprehensive analyses of the honorifics from a sociolinguistics standpoint. Sixty years after the first Iga-Ueno survey, we clarified the factors behind changes in language behavior, and proposed new research methods for field research in urban areas.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
23 年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
24 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
年度			
年度			
総計	14,700,000	4,410,000	19,110,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：人文学・言語学

キーワード：都市言語学、敬語行動、敬語意識、伝統的・地方都市、言語景観

1. 研究開始当初の背景

三重県伊賀上野(現伊賀市)は、昭和 27 年度国立国語研究所が、敬語と敬語意識について調査した近畿中央方言域にある伝統的・地方都市である。

第 1 次調査以降、日本社会も大きく変化し、この間の敬語使用と敬語意識の変遷を解明するためには、第 2 次調査を行うことが不可欠であった。

また、国語史ならびに方言国語史からの観点からも、京都・大阪の中心地から地域社会





への方言伝播とそのプロセスを都市がもつ中心性および拠点性から考察することは、方言研究ならびに社会言語学的観点から枢要かつ緊急の課題であった。

2. 研究の目的

三重県伊賀上野(現伊賀市)における昭和27年実施の敬語と敬語意識に関する第1次調査との経年比較による、60年間の敬語使用と敬語意識の変遷を解明および地方都市の敬語使用ならびに敬語意識の調査をとおして、中心地から地域社会への方言伝播とそのプロセスを、都市がもつ中心性および拠点性から考察する。

3. 研究の方法

近畿地方の歴史的・文化的特性が日本語の敬語形成にどのように関わっているのかを明確にするとともに、伊賀上野で認められる言語現象を、文化人類学、社会言語学等の研究者が共同で、長期間フィールドワークを実施することで、総合的に分析・検討する方法をとった。

研究代表のもとに総括班を置くとともに、言語地理学グループは、「方言圏形成モデルの構築」「データベースの構築」「企画調査:GISによる調査研究」を。言語行動研究グループは、「第1次上野調査の分析」「敬語と敬語意識の研究」「経年調査の計画と実施」を。社会言語学グループは、「地域特性モデルの構築」「都市の言語景観研究」「企画調査:社会言語学的調査研究」を実施した。

4. 研究成果

平成22~24年度におよぶ3カ年の調査研究をもとに、データ集として『伝統的地方都市の敬語行動-伊賀上野における第2次調査データ-』『伊賀上野言語地図』『伝統的地方都市;上野-暮らしとその変化』を編集した。

また、これらにもとづき、国立国語研究所が実施した第1次調査との経年比較を松丸真

大(研究分担者)が、また愛知県岡崎市との都市間比較を阿部貴人(連携研究者)が中心となってすすめ、地域言語研究会平成24年度第1回研究報告会ならびに成果報告書『都市・社会・言語』にて報告をおこなった。

加えて言語地理学的な観点から地方都市伊賀上野中心部と周辺地域との関係性ならびに地方都市伊賀上野と近畿地方中心部である大阪との関係性について、岸江信介(研究分担者)、大西拓一郎(連携研究者)、高木千恵(研究協力者)、鳥谷善史(連携研究者)らを中心に分析をすすめ上記研究報告会ならびに『都市・社会・言語』にて報告をおこなった。

このほかダニエル・ロング(研究分担者)、張守祥(研究協力者)、今村圭介(研究協力者)によって、定住外国人を対象とした言語景観調査をすすめ、その分析結果を上記研究報告会にて発表するとともに成果報告書『伊賀上野に見られる多言語景観』として刊行した。

また、高岡弘幸(研究分担者)、乾誠二(連携研究者)、平松豊作(研究協力者)、加田芳英(研究協力者)等の民俗学や人文地理学らの研究者によって、伊賀上野の都市特性に関する分析をすすめ、上記研究会ならびに『都市・社会・言語』にて報告をおこなうとともに、資料集『きっぷと資料で見る関西線と伊賀鉄道の歩み』を刊行した。

以上、伊賀上野を対象とした3年間にわたる多分野総合型の共同調査・共同研究によって、日本の都市をフィールドとした新しい言語研究の方法を示しえたと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

①中井精一、民間語源、その社会的理解と忘却の影、日本語学、査読無、31-7、2012、pp. 36-41

②大西拓一郎、「いろり」の方言形とその分布をめぐって、人と自然、査読無、2011、pp. 12-15

③LONG Daniel、伊賀上野の外国人住民コミュニティの言語生活環境、人文学報、査読無、443、2011、pp. 1-19

④中井精一、現代方言からみた植物利用の地域多様性、日本列島の三万五千年一人と自然の環境史、査読有、6、2011、pp. 173-198

⑤中井精一、フクロウの鳴き声から好天を予兆する、人と自然、査読無、2、2011、2-5

⑥中井精一、エゴマの方言名と栽培の地域差、BIOSTORY、査読無、14号、2010、15-17

⑦朝日祥之、ニュータウンにおける言語接触、日本語学、査読無、29-14、2010、pp. 89-97

〔学会発表〕(計 21 件)

- ①大西拓一郎、方言形成の要因・過程と分布の変化、日本語学会 2012 年度秋季大会、2012 年 11 月 3 日、富山大学、富山市
- ②中井精一、近畿中央方言域における待遇表現体系の変容と社会差、第 101 回国語学彙史研究会、2012 年 9 月 29 日、神戸市立外国語大学、神戸市
- ③中井精一、日本の社会言語学と社会階層—敬語行動の変容と社会差—、2012 年度 大韓日本文化学会 学術大会 (招待講演)、2012 年 8 月 25 日、韓国・ハンバット大学、韓国・太田市
- ④中井精一、都市の地域中心性と敬語行動、地域言語研究会 (平成 24 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 7 月 16 日、関西大学セミナーハウス「六甲荘」、神戸市
- ⑤松丸真大、伊賀上野における敬語行動変化、地域言語研究会 (平成 24 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 7 月 16 日、関西大学セミナーハウス「六甲荘」、神戸市
- ⑥乾誠二、山本コレクションから見た関西本線と伊賀地域、地域言語研究会 (平成 24 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 7 月 16 日、関西大学セミナーハウス「六甲荘」、神戸市
- ⑦大西拓一郎、伊賀上野の方言分布と変化、地域言語研究会 (平成 24 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 7 月 15 日、関西大学セミナーハウス「六甲荘」、神戸市
- ⑧高岡弘幸、都市の地域中心性再考、地域言語研究会 (平成 24 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 7 月 15 日、関西大学セミナーハウス「六甲荘」、神戸市
- ⑨岸江信介・清水勇吉、伊賀上野方言調査にみられる伊賀方言の動向、地域言語研究会 (平成 24 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 7 月 15 日、関西大学セミナーハウス「六甲荘」、神戸市
- ⑩中井精一、食の地域性と方言圏、第 1 回中国方言文化国際学術討論集会、2012 年 3 月 7 日、金沢大学、金沢市
- ⑪大西拓一郎、火と日をめぐる日本の民俗と方言、第 1 回中国方言文化国際学術討論集会、2012 年 3 月 7 日、金沢大学、金沢市
- ⑫ロング、ダニエル・今村圭介、伊賀上野の外国人住民の言語事情—地方都市におけるリンガフランカ日本語—、地域言語研究会 (平成 23 年度第 1 回研究報告会)、2012 年 1 月 8 日、大阪大学
- ⑬中井精一、近畿地方およびその周辺部における中央語の受容とその変化、国立国語研究所「方言の形成過程解明のための全国方言調査」公開研究発表会、2011 年 12 月 17 日、大阪大学、豊中市
- ⑭松丸真大、東西日本方言接触地域における方言の変化と維持、国立国語研究所共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための

全国方言調査」公開研究発表会『方言圏論の再検証—近畿を中心に—』、2011 年 12 月 17 日、大阪大学

⑮岸江信介、近畿圏内における言語変化と言語伝播—GAJ 以後の調査との比較—、国立国語研究所共同プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」公開研究発表会、2011 年 12 月 17 日、大阪大学

⑯ Long, Daniel & Seiichi Nakai、Researching Non-Standard Dialect Usage in Linguascapes, Methods in Dialectology 14, 2011 年 8 月 6 日、University of Western Ontario, London, Canada

⑰ ONISHI Takuichiro、The Process of the Areal Formation of a Dialect: A New Theory of the Formation of the Distribution of Japanese Dialects, Methods in Dialectology 14, 2011 年 8 月 3 日、University of Western Ontario, London, Canada

⑱中井精一、日本語敬語の地域性と都市性、韓日方言研究の現状と未来、2011 年 3 月 5 日、韓国・慶北大学校、韓国・大邱市

⑲大西拓一郎、言語地理学の目的を考える、韓日方言研究の現状と未来、2011 年 3 月 5 日、韓国・慶北大学校、韓国・大邱広域市

⑳松丸真大、富山県における勧誘表現の伝播、韓日方言研究の現状と未来、2011 年 3 月 5 日、韓国・慶北大学校、韓国・大邱広域市

㉑岸江信介、方言分布の比較、韓日方言研究の現状と未来、2011 年 3 月 5 日、韓国・慶北大学校、韓国・大邱広域市

〔図書〕(計 11 件)

①岸江信介・太田有多子・中井精一・鳥谷善史編著、都市と周縁のことば - 紀伊半島沿岸グロットグラム、2013、363

②中井精一・長瀬知香、富山大学人文学部日本語学研究室、伝統的¹地方都市：上野-暮らしとその変化-、2013、89

③中井精一・田島葵子、富山大学人文学部日本語学研究室、日本のお雑煮-2012~2013 年正月版-、2013、255

④中井精一・松ヶ平なつみ、富山大学人文学部日本語学研究室、伝統的¹地方都市の敬語行動 伊賀上野における第 2 次調査データ、2013、101

⑤中井精一編、富山大学人文学部日本語学研究室、都市・社会・言語、2013、103

⑥中井精一・能美仁、富山大学人文学部日本語学研究室、伊賀上野言語地図、2013、135

⑦ダニエル・ロング、今村圭介、富山大学人文学部日本語学研究室、伊賀上野に見られる多言語環境、2013

⑧加田芳英、乾誠二、富山大学人文学部日本語学研究室、きつぷと資料で見る関西本線と

伊賀鉄道の歩み、2012、161

⑨中井精一、和泉書院、都市言語の形成と地域社会、2012、271

⑩加田芳英・乾誠二・平松豊作、富山大学人文学部日本語学研究室、きっぷと資料で見る紀勢本線の歩み、2012、146

⑪中井精一・LONG Daniel、桂書房、世界の言語景観・日本の言語景観、2011、264

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中井 精一 (NAKAI Seiichi)
富山大学・人文学部・教授
研究者番号：90303198

(2) 研究分担者

- ①真田 信治 (SANADA Shinji)
奈良大学・文学部・教授
研究者番号：00099912
- ②岸江 信介 (KISHIE Shinsuke)
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授
研究者番号：90271460
- ③高岡 弘幸 (TAKAOKA Hiroyuki)
福岡大学・人文学部・教授
研究者番号：00226739
- ④LONG Daniel
首都大学東京・人文科学研究科（研究院）・教授
研究者番号：00247884
- ⑤朝日 祥之 (ASAHI Yoshiyuki)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授
研究者番号：50392543
- ⑥松丸 真大 (MATSUMARU Michio)
滋賀大学・教育学部・准教授
研究者番号：30379218

(3) 連携研究者

- ①大西 拓一郎 (ONISHI Takuichiro)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・時空間変異研究系・准教授
研究者番号：30213797
- ②鳥谷 善史 (TORITANI Yoshifumi)
天理大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：30412133
- ③阿部 貴人 (ABE Takahito)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・研究情報資料センター・プロジェクト特別研究員
研究者番号：80466226
- ④乾 誠二 (INUI Seiji)
天理大学・附属天理参考館・学芸員
研究者番号：20444318